

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：稲荷町自治会

開催場所：稲荷町公会堂

開催日時：平成 28 年 6 月 15 日（水）19 時 03 分～20 時 53 分

参加者：自治会側【地域住民の方 80 人】

市側【染谷市長、牛尾理事、眞鍋危機管理部長、今村子ども未来部長、伊藤行政経営部長、三浦秘書課長、秋山協働推進課長、駒形戦略推進課係長、山内協働推進課係長】

内 容

① 石川稲荷町自治会長あいさつ

・みなさん、こんばんは。皆さんは、続けてのお話し合いですので、ちょっと疲れているかもしれませんが、よろしくお話ししたいと思います。島田市長も昨日、議会が終わってほっとしているんじゃないかと思いますが、続けてこういう会議に出させていただいてありがとうございます。稲荷町ではですね、島田市長が一番印象の強いところではないかと。出始めに、一番最初のときに稲荷町ではなかったかと。そして、その後、さわやか稲荷やら、老人会やら、いろんなところに市長においでいただきまして、いろいろなお話をさせていただきました。まあ、その時には、楽しいこともありましたし、島田市長としては、厳しいことを言うねえなんて感じもあったかと思いますが、やはり、2年、3年になりますか、やっていただきまして、稲荷町の自治会として、市長をお迎えするのは久しぶりじゃあないかと思いますが、皆さん、今日はですね、広報やテレビや新聞の市長の顔じゃなくて、実物を見ていただきまして、実の声を聞いていただきまして、それこそ、いつも言えないことを言わせていただきまして、そして、今日は市長を悩ますのではなくて、その周りの人をですね、いろいろ来ていらっしゃるものですから、悩ましてですね、「こういうことはどうなってんの」ということを聞いていただきましてですね、そして、実りの多いこの会にさせていただければ、大変ありがたいと思いますので、よろしくお話しします。

② 市長からの市政報告

■はじめに

・稲荷町の皆様、こんばんは。ここは、今、自治会長から、石川さんからご紹介いただいたとおり、私にとっては何うのがいつもいつも楽しみで、お母さんの顔があるかなとか、来る場所であります。やっぱり、あたたかく迎えていただけたところっていうのは、本当にホッとすっていいですかね、気が緩んで、嬉しさのあまり涙が流れるくらいでございます。ちょっと疲れているって言われると、いつもショックなんですけど、疲れている顔をしているかもしれませんが、皆さんと一緒にここにいられる、しかもこんなに大勢の人に来ていただけたことに心から感謝で、少しお話をさせて頂きます。昨日、議会が終わったばかりで、（稲荷町の車座トークに出席している）福田議員からも、大変厳しい追求をいただきました。馬術のトレーニングセンターを島田市に造ってはどうかという、非常に前向きなといいますか、建設的な御意見をいただきました。5億円にも及ぶ投資がこの町におりるならば、やった方がいいと

ということで、熱弁をふるっていただいたところであります。

今日はですね、6月15日、来る前にちょっとおおりの西側の駐車場をちょっと見ましたらね、耐震シェルターが展示を、今日から組み立てが始まって、明日から一般公開するところなんですけど、実は、熊本の地震、震度7が2回も来るといことで、新しい基準で建てられた家でも、1階部分がぺちゃんこになったところもあるんですね。それで、熊本地震には、医療チームも送ったし、今でも定期的に職員を派遣して復旧支援をしているわけですけど、そうした職員の報告を聞いて、うちの防災にどういう備えができるだろうかって考えたときに、我が島田市は、まだ耐震化率が80代なんです。昭和56年よりも前に建てたお宅は、古い耐震基準で造られているので、熊本の地震のような大きな揺れが来るとですね、潰れてしまう可能性もある。耐震補強してもらいたい、で、補助金も付けているんです。だけれども、やっぱり、自己負担の額もあるもんだから、80過ぎて、「俺はもういいよ、地震が来たら、その時はその時だ」という方も大勢いらっしゃる。でも、助かる命は、1人残らず助けたい、そういう強い思いからですね、この6月議会に、議員にご承諾いただければの話なんですけど、耐震シェルターと防災ベットの補助金を、市単独で、ほぼ全額つけることにいたしました。その耐震シェルターが、本物が、おおりの建物の駐車場側、西側の少し広い場所がありますね、1階の、あそこに組み立ててあります。4畳半の、部屋に入る大きさです。8畳10畳に置いていただければ、部屋の隅っこのほうに置いて、絶対安心な部分をつくって、居間としても使っていただければと思います。是非、実物を見ていただいて、これなら、家でも使えそうだと、家の親は、まだ古い家に住んでいるからってという方がいたら、担当は危機管理部と、それから建築住宅課、市役所に行ってもらえば必ずわかりますので、聞いていただければと思います。防災ベットというのは、ベットの四隅にフレーム、棒があって、天井が付いて、これもそこに寝ていれば、潰れてもベットは潰れないというものです。これは、20万円ほどの補助を付けました。こちらも、全額、市の支援で建ててもらうことができます。そしてまた、一番肝心の耐震補強のほうも、65歳以上の方、そして、それ以下の方もそれぞれ10万円ずつ増やして、60万円と80万円というふうにいたしました。これは、今、県内でもトップクラスの、1、2を争う水準にまでなっていると思います。ぜひ、もう一度、我が家の耐震、そして大きな地震災害等があったときに、とにかく、稲荷町の人は全員無事だったよってなるようにですね、一人一人のお宅で気をつけていただけたらありがたいなというふうに思います。

今日、ここに来る前に、稲荷町って、大きい所帯だけど、四丁目まであってね、どのくらいの世帯数があるかなって、人口はどのくらいかなって調べてきました。そうしましたら、稲荷町は、世帯数がですね、1,235世帯、人口は3,334人、これは3月末日なんですけれども、そのくらいの人口でございました。で、高齢化率って言って、65歳以上の方の割合が、25.3%でありました。これは、今の島田市、この5月の末の高齢化率が29.3%なんです。ですから、それに比べると稲荷町は、比較的若い、そして何より、お子さん、子どもの比率が、ここは17%あるんです。島田市は今、平均で子どもが13.8%であります。ですから、17%お子さんがいるってことは、稲荷町には子どもの声が響いて、子どもたちの姿が見れる、そういう町内だと思います。1,200世帯以上あっても、子どもの数が大変少ないという自治会もございます。1,200世帯以上あって、子どもの数が28人とか、そういうところもありますが、ここは、子どもの数が566人ということでした。ですから、本当に第一小学校に子どもたちがいっぱいいるのも、この稲荷町のおかげかなというふうに思っております。こうした、稲荷町全体が、市の中でも比較的市中心市街地にあって、しかも高齢化率がそんなに進んでいなくて、子どももいて、という意味では、例えば、町のど真ん中の、本通の方は、もっとうと高齢化率が上がっていて、子どもの数もいなくて、様々な課題があります。そういう意味で

は、ここは比較的恵まれたところだなあとということが、一番最初に私は思うところであります。しかし、そうであっても、ここにお住みの方たちは、いろんな課題を持っていらっしゃると思いますので、のちほど、その課題を聞かせていただけたらなあというふうに思います。今日は、お子さんが多いということですので、まず待機児童の話からさせていただきたいなあというふうに思います。

■待機児童・放課後児童クラブについて

・今、働くお母さんたちが大変多くなってですね、今現在、待機児童が27人ですかね、そのくらいなんですけど、それでも27人いる。預けられるなら、預けて働きたいという人がいる、入れられるなら入れたっていう人も含めれば100人くらいいるんじゃないかというふうに、私は考えています。そうした中で、できれば29年度中には、待機児童を0にしたい、という大きな目標を掲げています。そうした中、向谷の北河製品所の横にタコ公園がありますね、あの横に、向谷の住宅がありましたね、昔。あそここのところに、来年度中に、実は市の土地に、民間のみなさんの資本で、保育園を造ってもらおうと思っています。その保育園は、0、1、2歳を中心に、60人くらい預かる、その御兄弟の方たちも一緒に預かるけれども、普通の保育園のように、4歳、5歳、6歳がっぱいの保育園ではなくて、赤ちゃんを主に預かる、そういう保育園を造ろうと思っています。とうのは、島田市は、金谷と川根には0歳児でも待機児童はいません。この旧市内だけ、待機児童がいるんです。しかも、3歳以上は待機児童はいません。要するに、育休明けの0歳児、1歳児のところ待機児童が出てしまう。しかも、赤ちゃんだと、一人の保育士さんで3人くらいしかみられない。たくさん保育士を雇わないと、経営が成り立たないものだから、保育士も不足してて、なかなか難しいところでもあります。しかし、なんとか、この赤ちゃんのところの、保育園への入園の枠を広くしてですね、島田に来れば保育園に入れるよっていうふうにしたい。そのために、29年度中に待機児童0を目指すということで、向谷に1つ、それから、できれば他にも認定こども園や、あるいは、市の土地に建ててもらおう保育園を増やしなごうですね、なんとかこの待機児童を0にしていきたい、というのが、まず29年度、一番大事に考えているところでもあります。と同時に、やっぱり働いているお母さんたちが多くなって、実は放課後児童クラブっていうのも困っています。毎年、いくらかずつ希望は増えるんですが、それでも、市も一生懸命定員を増やす努力をしていますのでね、大体、去年の3月くらいは、待機児童が3人とか5人とかという状況だったんです。ところが、今年、希望をとりましたらね、1回目の希望をとったら、125人も待機児童が出た。これは、我々の想像をはるかに超える事態でして、教育委員会にもお願いをして、空いている教室は、私の権限で申し訳ないけど使おうと、今まではご協力をお願いして、いいって言ってもらえたら使ってたんですけども、とにかく空いてる教室は、放課後児童クラブに、で、教室に空きがないところは、校庭に放課後児童クラブを造ってでも、今、定員を増やすということでやっています。1小も、2小も、4小も、金谷小も、初倉小も、初倉南小も、六合も、六合東もそうですが、待機児童がいるところは、今、精一杯、そういう努力をしています。放課後児童クラブも、学校の中に教室があるところは、18時までしか見られないんですけども、少なくとも校庭に建てているところは、18時半までは、少しでも長く、お母さんたちが帰る時間まで見ようということで、一生懸命やっているところです。ただ、夏休みになると、またどっと増えますし、一番困っているのは、その子どもたちと一緒に遊んでくれる指導員の方たちであります。指導員っていうチーフの方は、保育士とか学校の先生の資格がいるんですが、お手伝いの方は、何の資格も、特別なものはいりません。シニアの世代でも、もちろんオッケーです。子どもと一緒に遊んでいただいて、一緒にちょっと勉強を見ていただくようなことができれば、ということで、

時給まで言って申し訳ないですけども、お手伝いして頂ける方の時給は 900 円でございます。指導される方が時給 1,000 円ということで、今やっております。毎年、少しずつ上げる努力もしておりますので、ぜひですね、午後から夕方の時間、ちょっとだけ子どもと遊んでもいいなど、毎日じゃなくてもいいです。週に1日でも2日でもいいです。そういう方がおられたら、子育て応援課っていうところに声を掛けていただくと、本当にありがたいです。地域の子供たちのことですから、私はやっぱり、地域の目の届くところで育てていきたいって思っています。今、6年生まで、放課後児童クラブで見ることができました。まだ6年生の子は少ないですけども、4年生で、まだ放課後児童クラブにいたいよっていう子は結構います。だんだんそれが、4年が5年、5年が6年になって中学に行くまでは、やっぱり放課後は、放課後児童クラブにみんな通うような、そういう時代が来るのかなって感じています。私個人は、それが決して良いことだとは思っていません。自分の子どものことを思えばね、親に内緒で悪いことをしました。秘密基地も造りました。カエルも捕まえて殺しました。でも、そういういろんなことをやる中で、ちょっと危ないことをしたり、怪我をしたり、それがやっぱり子ども育てるんだなって、私自身は思っています。だから、子どもの環境からみんな危険を省いて、安全なところにおくっていうのは、いいように見えてやっぱりそこには課題がある、いろんな経験をさせないと、子どもは、恵まれた環境というだけでは育たないってつくづく思います。でも、そういった一つ一つのことでも、地域の皆さん方と共に過ごす中で、教えていただければありがたいなって思っていますので、是非、放課後児童クラブのほうはですね、もし、夕方お暇な方がいらっしゃったら14時くらいから18時半くらいまで行っていただけたらありがたい。夏休みにちょっとお手伝いしていただけるだけで本当に助かります。どうぞよろしく、お願いいたします。

■市民会館について

・市役所に行って気づかれた方はいらっしゃると思うんですが、市民会館を壊し始めました。5月の連休明けから。できれば、島田の大祭に間に合うようにスピードアップするようにはありますが、この秋までに、市役所の隣にある市民会館は、更地になって、当面の間は駐車場とイベント広場、そして、中心市街地の災害時の避難場所等に使うところと思っています。この稲荷町の方を含めて、多くの方々に市民会館をもう一度建ててくださいという要望書をいただきました。本当に、熱い気持ちを寄せていただきました。市民会館はね、本当に県内でも2番目に早くできて、あの規模で、非常に音響も良く、県内一の市民会館、昔はたくさん観光バスは来だし、芸能人も、ドリフターズも来だし、グループサウンズも来だし、いろんな有名な人たちが来て、それが無くなるっていうのは、本当に寂しいことではあるけれども、一番早く出来たってことは、やっぱり一番早く寿命も来るってということなんです。次の大きな市民会館をという話をいただいている中で、今、私は少し待ってもらいたいなって思っています。というのは、市民会館が閉鎖になる直近の5年間を見ますと、本番であの大ホールを使っていたのは、年間で30日ほどでありました。リハーサルを含めても、50~60日なんです。新しく同じものを造るとなれば、70~80億円は下りません。隣の市役所が、今年、築53年であります。それこそ、議会では、熊本地震級の地震が来たら大丈夫なのかということをおっしゃっています。躯体は、1Bというランクですけども、耐震性は大丈夫です。ただ、中の天井とかいろんな物が落ちてきたり、壁に亀裂が入ったりはするかもしれません。私は、この市役所を建てる時にもう一度市民会館を合築出来ないか、おおるりだって築33年ですから、そこもだんだん古くなってくるわけで、あの辺り帯をもう一度どういうふうにしたらいいかというのを市民の皆さんの合意形成を得ながら造る方がいいんじゃないかというふう

思っています。そのために、少しの間、1,500人規模のものをやる時には、焼津の市民会館、あるいは菊川のアエルを使っただけということ、これまでも市民会館を使っただけの方々には、1回あたり50万円の補助を出しています。それで、機材を運んでいただいたり、交通費に使っていただいたりというようなことをしながら、大変ご不便をお掛けしているんですが、しばらくの間、おおると、夢づくりと、チャリムと、600人規模が三つありますので、そこで何とか回しながらやっていきたいなというふうに思っています。

■市政について

・これからの市政って、私は、合意形成ってというのがとても大事だなと思っています。その合意形成なしに強引にしまうと、あとでやっぱりどこかで辻褃を合わせないといけなくなる、そういう課題が出てきます。だから、じっくり皆さん方に説明責任を果たしながら、物事を決めていく、そういう市政をやっていききたいなと思っています。私、今回の議会の中でちょっと言い返したくることがありました。それは、ある議員さんが、「島田はお金が無いんですよ、だから出来ないんですよ。」っていう言い方をしたんです。お金が無いっていうんじゃないんです。これから、人口が増えていく目処が無いわけですよ。子どもの数が減り始めたのは1975年です。もう40年間も減っている。だけど、最近になって国は慌てて地方創生とか言っているわけです。やっぱり、この子どもの数が安定するまでには30年から40年、日本の人口が減っていくわけです。高齢化はどんどん進んでいって、超高齢社会を迎えます。子どもの数は減っていきます。ということは、働く人数が減るわけだから、明日は今日より必ずよくなるっていう税収が右肩上がりの時代ではなくなるわけです。右肩上がりの時代なら、私はいろんなものを造って、借金を次の人に残しても、次の人たちはちゃんと返していけるでしょう。でも、今はそういう考え方の時代ではないと私は思っています。今あるお金を大事に、選択と集中を重ねながら、何に投資をしていくのか、そしてまた、できるだけ健全な財政を次の世代に繋がないと、次の若い人たちが、自分たちの好きなことが出来ないような町だったら、魅力は無いですよ。そういうためにも、私は、自分の任期だけの中で何を造るっていうよりも、10年先の島田のために今何をやるのか、っていうことがこれからの市長の仕事だと思うんです。そのことについては、「もっとお金を使え」と言われる方がいらっしゃいます。そういう声も聞きます。だけど私は、そんなに無責任に、あれやるこれやるは、できないと思っています。だけど、確実にここに住んでいてよかったって実感していただける、そういう町をつくりたいと思います。皆さんがよくご存知の森昌也さんという、島田の名誉市民になられた立派な市長がおられました。昭和28年という時に市長になられました。その時、私が生まれる前の年ですけども、その時に、すでに「市民の手による市民のための市政をつくります。」って選挙の時におっしゃっているんです。20年間、島田市政をやって、島田の町を本当に、市民会館も出来たし、市役所も出来たし、大きな会社も誘致をして、町を大きく発展させた方です。その方から、昭和48年にお辞めになるときは、「自分は、この町が、小さな町であっても世界に光るコスモポリタン、国際都市なんだということと同時に、私は、量的にこの町を大きく発展させてきた、だけど、本当に住みやすい町は、その量的な発展の上に質的な発展を遂げた町なんだ」ってことをおっしゃって引退されたんです。私は、不思議なことに、その森さんが市長になられた昭和28年からちょうど60年目に、しかも、森さんの亡くなられた月に市長を引き継ぎました。いつも、自分の机の脇に森さんの著書を置いています。森さんの書いたものは、今でも1つも色褪せるものではない。でも、確実に違うのは、森さんの時代は明日は必ず今日より良くなって、土地も上がって、人口も増えて、町も大きくなる時代でした。私が引き継いだのは真逆の時代を引き継ぎました。だけど、やらなきや

いけないこと、目指す方向、1つも変わらないです。そういう町を、しっかりつくっていきたい、それを皆さんにお約束したいなってつくづく思います。じゃあ、量的な発展の上に質的な発展を遂げた町の、その質的な発展って一体何だろうかって皆さん思われるのでしょうか。やっぱり、私は一つには、弱い立場にある人たちもこの町に住み続けられる、安心して住める町だと思います。今、実は島田の町の中、高齢化率が29.3%って言いましたけれども、ご高齢の一人暮らしが増えました。ご高齢の2人だけの世帯も増えています。そして、結婚はしない50代の娘さんや息子さんが年老いた両親を見ているという家族も増えてきました。年金だけで暮らしている方も大勢いらっしゃいます。一日1,000円以下で食事を賄って言う方も大勢いる、そういう町になりました。もちろん、恵まれた、裕福な方もたくさんいらっしゃいます。けれども、高齢化が進んで、単身家族が増えて、未婚者が増えて、結婚する人たちも初婚年齢が上がってきました。女性で29歳、男性で30歳です。子どもを産めるっていったって、せいぜい40ぐらいまでしか女の人は、なかなか妊娠しにくいんです。30過ぎて結婚して、3人産むのは大変です。やっぱり、社会全体の仕組みがもっと若くして結婚できる体制になって、仕事をすることも、子育てをすることも、おなじみ価値があることだよっていう日本の社会にならないと、子どもも増えないし、結婚して家族を持とうっていう人も増えないだろうって私は思います。質的な発展の町という話をしていたわけですが、誰もが安心して暮らせる町であると思いますし、医療や、介護や、福祉や、こうしたものがしっかり充実した町であると思うし、それから、子どもを育てる環境、それから、子どもの教育環境、こういったものにしっかりお金をかけられる、価値を見出せる、そういう町だと思います。私は、子育て支援とか、子どもの教育とか考えるときに、実は国のやり方はちょっと矛盾があるなっています。というのは、働く人を増やしたいから、サービスの競い合いになっちゃってる。例えば、「医療制度は無料にします」って、ある町は言います。隣の町も「じゃあうちも、15歳までは無料にします。」って言います。でも、何でもタダがいいんでしょうか。私は、今、1回500円いただいています。最高、月4回まで、2,000円までいただくことにしています。やっぱりこの子がね、今すぐ病院へ連れていかなければならないのか、塗り薬を買ってきたもので済むのか、やっぱり親を育てるという意味でも、何でもかんでも病院がタダだからいいってわけではない。しかも、今だって、4億円以上のこども医療費を使っていますが、全部タダにするにはあと7,500万円ぐらい足さなければなりません。そのお金、合わせて5億円近くがあったら他にいろんなことが出来ます。やっぱり、何にお金を使うかということだと思ったり、こどもを22時23時まで預かるというサービスがいいのかと言ったら、私はやっぱり子どもは9時になったら寝られるような生活をするのが一番なんだと思うんです。だから、サービスじゃなくて、それがその子のために本当に良い環境をつくれるのか、親を育てることができるのかっていうことを島田は力を入れています。子育て、それから教育、単なるサービスはしないという方針を私は持っています。そうやって、我が故郷の宝である子どもたちを育てて、お父さんお母さんに親になってもらって、この町でやっぱり住んでてよかったって思ってもらいたい。議会からも言われました。「若い人たちが流出しているではないか。」学校に行く、いろんな就職するっていうことで、島田を出る方は確かに若年層に多いです。でも一方、子育て世代は逆に島田に流入してきています。そういうことを考えると、島田は子育てをしやすい町だなと思います。ちなみに、持ち家率は県内二位、伊豆市に次いで二番目に多いのがこの島田であります。それから、離婚率、離婚する人が多いような気がしますが、それでも島田は県内35市町の中で、トップ、離婚が少ない町です。軽犯罪もトップクラスに少ない町です。みんなが家を持っていて、離婚も少なく、軽犯罪も少なかったら、住みやすい気がします。そしてまたここに住む人たちは大変温かい人が多い。私は、よそから来た人たちが、この間もハローワークの所長と、それから、ろうきんの所長さんですかね、お会いしたら、「全国いろんなところを回っているけれども、こんなに住み良くて、いい町は

無い」ってお世辞抜きに、そうおっしゃってくださいました。中に住んでいるものはなかなか気が付きません。だけど私は、外から来た人がそういう言葉を発してくれることを大変嬉しく思うし、自分たちの誇りに、自慢に繋げていかなければいけないなというふうに思っています。

■特定空き家について

・特定空き家の話をちょっとさせていただきたいと思います。街の中に、空き家が目立ってくるようになりました。今、国はですね、様々な土地政策を、新しい方向性を国土交通省の方で考えています。私も、国土審議会の土地政策分科会の委員をして、いろいろと国の考え方や施策を見ていますけれども、今、特定空き家といって、空き家になっていて、誰も住んでいなくて、しかもそのままにしておくと、環境に悪いとか危険が及ぶとかっていうものを、特定空き家というふうに行政が認定して、1年以上放置されているっていうことであれば、壊してくださいって勧告することが出来て、勧告しても壊さなかったら、行政がそれを壊して、更地にしてその分の壊した解体費を本人に請求することができるようになりました。それと同時に、昔は税金対策で、家があれば更地よりも税金が安いから、家を置いておくという人がいます。しかし、特定空き家っていうふうになると、家が建っていても、更地と同じだけ固定資産税がかかります。家がある時の6倍です。ですから、家が建ってるからって税金が安くなりません。特定空き家と言われるような空き家がもしお近くにあれば、是非、行政の方に一報いただければありがたいなと思っています。今、国の方ではですね、放棄宅地という言葉まで出てきました。これは、耕作放棄地みたいに、もう使わなくなってしまった家や土地が、あちこちに点在する状況が、これから10年すると、日本の国の大きな課題になるという話なんです。団塊の世代の人以上、65歳以上の方たちは、全国的に持ち家率は88%を超えています。その子どもの団塊ジュニアの人たちは持ち家率は60%台です。でもそれでも、持っているんですね。地方に住んでいる親が亡くなった時に戻ってきて、その家に住むって方は少ない。そうすると、子どもたちが住むところはあるわけだから、親の家は、相続しても売れば売りたいし、売らなくてもそのまま置いとくしかないっていう事がどんどん増えてくるという、そういう時代です。そうなったときに、行政がそれらの土地を、これまでの区画整理のように、寄せて空いた土地を公的に利用することはできないだろうとか、様々な検討がすでに国の方では始まっています。この街の中でもですね、実はあっちにもこっちにも空き家があるよっていうのが、本通り周辺などでは、大変多くなってきました。防犯の意味からも、それから地域コミュニティの意味からも、やっぱり空き家対策というのは大変重要になってくるなと思っています。と同時に、島田市は、今年からですね、空き家バンクというのを、これまで川根地区だけでやっていたものを、市内全域に拡大をしました。不動産屋さんの持っている物件を行政の方で全部データを預かって、そのデータを全部示しています。「しまだのおしごと」というサイトもありますし、「住んでしまだ」という別なサイトがあるんですが、例えば、島田へ来て仕事を探したいよ、初倉で探したいよっていえば、初倉をクリックすれば初倉の会社が出てきて、製造業を探したいよっていえば、製造業の会社が出てくるというような形、と同時に、島田ってどんな町なのかっていう紹介もしながらですね、この町に移り住んでくれる方達を増やすということをサイト上でやっています。また、他県から越してきてくださった方には120万円までの補助金を今用意しながら、移住定住を盛んにしたいと思っていますところでもあります。しかしながら、仕事がなければ、やっぱり仕事と住むところがなきゃ若い人たちは増えてこないです。その仕事をどうつくるかということで、今年は特に、稼ぐ町をつくるんだということで様々な施策をうって出ているところなんです。

■大規模開発について

・街の中に、大規模な土地がなかなかないものですから、主に今進めようとしているのは、金谷の新東名のインター付近の土地でございますが、内陸フロンティアに指定して、大規模な開発を目指しています。と同時に、国道 473 で金谷の方から川根に上っていく国道、そしてまた、新東名の真下の交差する北側のところには、にぎわい交流拠点を造るということで、NEXCO 中日本と、大井川鐵道と、JA 大井川と、島田市の連携によるプロジェクトがすでに始まっています。こちらは、30 年の 5 月には着工の予定で、その計画で、今進めています。また、これも金谷の方になるんですが、空港の近くに、金中跡地という、金谷中学校 跡地という土地がございました。昔は、メッセを造るとか、様々な話があったところでございます。5.5ha という広大な土地がございます。これを、先日、県と一緒にアイデアコンペをいたしました。全国から応募があって、1 等賞になった方は、大成建設のまちづくりのプロジェクトに属している方が、個人で応募されたものでしたけれども、その内容は、「富士見の湯」って言って、大きな露天風呂と、コテージと、様々な自然環境を生かした、食と健康と癒しの場にしたらどうかという、そういうご提案でありました。今、そのアイデアコンペの 1 等賞の中身とはまた別に、県と市の方で、これから事業計画をたてて、民間の活力を導入しながら、あそこに儲かる施設を造って行こうということで、そちらのプロジェクトの方も動き出しているところであります。こちらは、今年度中に事業計画をつくり、できれば、今年度の末には事業コンペまで持って行きたいというスピード感をもってやっています。昔は、行政は、5 年、6 年かかるのは当たり前で、基本構想をやって、基本計画をやって、基本設計をやって、詳細設計をやって、建設にかかってというのが行政の仕事でしたけれども、今こんなことをやっていたら、民間がとても食らいついてきてくれません。本当に 3 年以内に物が動かないと、民間の方も 5 年先のことはどうなるかわからんという時代になりました。

■行政の役割について

・行政もこれまでとは全く違う意識をもってやっていかなければなりませんし、私はいつも職員に言っているのは、行政は、究極のサービス業であります。やっぱり自分たちの仕事の先に市民の声が、市民の顔がしっかり見えるように仕事をしてもらいたいなというふうに思っています。と同時に、先程来お話したように、地域コミュニティというものがだんだん人口減少と共に小さくなる場所もあってですね、中には、隣組の順番を回すのが大変、役員になり手がないよ、あるいは、川ざらいに行きたくても、もう高齢で行けないよっていうような事例も、実は市内の幾つかで出てきています。そういった地域の中で、やっぱり地域コミュニティを維持していくためにこれからどういう政策をとっていくのかということも、とても大事です。そのために、例えば今年度は、まちづくり支援事業交付金って言って、地域で様々な地域のための活動を始めたいという方たちに、これまで 1 年こっきり、10 万円か 30 万円のまちづくり交付金を出していたんですが、これを、今年から 6 年みることにいたしました。6 年間で、最高 180 万円まで見るということで、団体を育て、その事業を育て、しっかり地域に根付くまで見て行こうというふうに思っています。又、小さな自治会やご町内が、役員のなり手が無いわけだから、少し規模が大きくなれば、助け合いもできるということで、そういった自治会が合併するという場合には、合併の補助金も今年から付けています。様々な形で、まさに行政と、そして地域がお互いに助け合うというか、パートナーになるような、そういう町をこれから作っていかなければならないと思っています。私

は、行政の様々な経営を担う会社の社長のようなものですが、その経営以外の自分の理念の中で、自分には役割があると思ってこの4年間励んでいます。その役割の1つは、この町の世代交代であります。この町は、立派な方たちが大勢いらっしゃって、60代、70代、80代の方たちがやっぱりこの町を動かしています。それは、素晴らしいことなんだけれども、でも、次の世代の人たちが、地域づくりだとか、あるいはこういった自治会の活動だとか、まちづくりだとか、行政のやることに興味を持ってもらわなかったら、私たちはいつかなくなってしまうわけです。その世代交代を、しっかりしていくために、10年先の島田を語り合える若い人たち、30代、40代、50代の人たちの意見をしっかり聞きながら、言えば聞いてもらえるんだ、町は少しずつ変わっていくんだ、自分たちのやることに手応えが感じられるんだっていう、そういう町をつくりたいということを強く思っています。それは、自分の役割だというふうに思っています。それから、いろんな役割があるけれども、世代交代、それからもう一つは、決して悪気があるわけでもないから素直に聞いてもらいたいんだけど、島田も、金谷も、川根も、ずっと長いこと対立軸を生む、そういう政治っていうか、やってきたんですよ。政治っていう言い方は変かな。なんて言ったらいいんだろう。「あいつがあっちをやるなら俺はこっちだ。」っていうような、そういう感じて言ったらいいのかな。やっぱり、中で争っていたら、決してこの町は発展しません。やっぱり、島田は一つじゃなきゃ。若い人たちの力を一つに合わせたいと思うし、みんなで頑張ったらいろんなことができる。それを、私は伝えていきたいなと思っています。それから、市役所の改革であります。やっぱり、いろいろ話をして、うちの職員は一生懸命やってくれていますし、正直、私は優秀な職員が多いと思っています。けども、これまでの行政と同じやり方では、もうだめなんです。そのところの意識改革をどれだけ伝えられるか、皆さんに「変わったね」って言ってもらえるか、ここは、行政の一つ一つの施策とは違うけれども、私は、この4年間に一生懸命、力を入れたいと思って頑張っていることであります。

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1-1	<p>■浜岡原発について</p> <p>私は、1ヶ月ほど前に、児童の障害施設に週数回行っているんですけども、島田市の原子力災害広域避難計画ということと、県の防災のしおりっていうのをもとに、市の職員が2名ほど来られまして、説明を受けました。それで今、それについて、障害を持った方と一緒に行動をした時に、これに書かれてあるように緊急避難時にどうしたらいいかという対策をたてるんですけども、説明を聞いた中で、あまりにもスムーズに行っているような感じを受けます。ところが、最近の熊本の地震を見ますと、この中に書かれてあるように、自動車が来るだとか、そういうことも通常ですと、例えば逃げなければならないよということで、今、この地域を取り巻く状況っていうのは、この前テレビなんかで具体的に調べると、年に5センチくらい沈んでるよとか言われてまして、もっとひどい状況におかれているのではないかって</p>	<p>●私の認識は、知事はですね、地元の市長たちがみんな反対している中で、再稼働をOKと出すことは無いというふうに思います。今、私ども、UPZとて言って、31キロ圏内に11の市町があります。そのうち、掛川、菊川、牧之原、御前崎は地元4市です。ですから、この4市は、原発が出来た時から安全協定というのを結んでいます。原発が出来た時に結んだ安全協定ですから、事故が起こるなんて前提では無いんです。だから、地元4市が結んでいる安全協定には、再稼働の事前了解はありません。事前了解は、ネジ一本替えるとか、新しいタンクを一つ置くとか、そういう事前了解の内容になっています。私どもUPZ圏内の地元4市を除く5市2町の町はですね、今、中部電力と安全協定を結ぶべく、最終段階のところまで来ています。もう少しだと思っています。2年以上議論を重ねて来ていますので、私どもは地元4市を超える安全協定をなかなか結べないというのが、県や中部電力との見解でございます。しかし、</p>

	<p>ということで、最大の津波と地震が来た時に、とてもこれじゃ間に合わないっていう、これ自身は必要だと思うんですけども、そういうふうに思っているんですけども、そんな中で、最近テレビなんか見ますと、浜岡原発の中部電力ですよ、それを盛んに宣伝していて、いろんな宣伝を通して、皆さんに安全だよ安全だよって言っておられる、防潮壁も完成してて、こんなに安全だから見てくださっていう宣伝もされてますよね。先程言ったように、テレビでいろんな宣伝をされていますよね。それで、4号機も9月に再稼働するんじゃないかっていうふうに言われているんですけども、推測ですけども、それで聞きたいのはですね、島田市はどうするのっていうことで、原子力規制委員会が OK を出しましたと、今の基準で安全ですよって出しました。川勝知事さんが OK って言ったら、再開できるわけですよ。しかしながら近隣の人は、御前崎以外はだめだよっていうことをアンケートなんかを見るとそういうふうに言われているんですけども、私自身の認識不足かもしれないですけども、さっき言ったように規制委員会があって、OK だよ、今の基準に合致してるよ、で、県知事さんが OK だよって言ったら、すぐこれ近隣のたくさんの市長さんがまあだめだよって言われても、OK するってことは、その認識は正しいのですかね。</p>	<p>地元4市とできるだけ同じような、直接的な再稼働じゃなくても、ネジ一本替えるのでも、許可が必要ならば、再稼働するのになんで許可が必要じゃないかっていう、そういう議論ができるような内容にしたいなって思っています。私自身は、再稼働は無理だと思っていますし、私自身は今の状況で再稼働を認めることはありません。なぜかといえば、稼働していなくても、使用済み核燃料をたくさん置かれていますし、安全な管理も難しいですし、実は3.11のとき、あんな大津波が来て、確かに、福島原発がああなりました。でも、あれは本当に津波だけが原因だったんでしょうか。津波が来なかったとしても配管が壊れてダメになった可能性があるんです。だけど、そういうことの検証も実はちゃんとされていません。そうした中で、今、浜岡が、防潮堤が22m 出来ました。あらゆる考えられることは準備しました。出来ましたって言っても、私自身は、難しいと思っています。反対する理由は、この島田市は、鵜網のあたりまで31キロ圏内に入ります。人口の9割が UPZ 圏内です。その人たちを安全に逃がすっていう自信が、そりゃあ確かに、避難計画も作るし、準備も万端にする、けど、現実には、計画通りになんか行かないんですよ。ましてやその計画は、御前崎が逃げて、牧之原が逃げて、吉田が逃げてから島田が逃げるというような内容です。原発に近いところから逃げるようになっていくんです。どうでしょうか、皆さん、そんなに我慢出来ますか。我先に争って競って逃げるんですよ。バスだって、避難するだけに必要な台数が本当に集められるかどうか、それを調達するのは県の役割になっていますけれども、やっぱり計画自体大変難しいところがあります。いろいろな課題がある中でですね、私は再稼働は難しいと思っているし、知事が自分だけの判断で再稼働を出せるとは思っていません。</p>
1-2	<p>■浜岡原発について 知事さんはそういうふうに認識されているっていう理解でいいですかね。例えば、近隣の市町の人々の意見をちゃんと聞いて、県議会だけで OK を出して、それじゃ知事やりなさいとかっていう、そういうニュアンスっていうのは考えられないですね。</p>	<p>●知事は地元の意見を大事にするということをおっしゃっているのと同じように、今回、私どもが中電と結ぶ安全協定には、県も入っています。我々と一緒に県も一緒になって中部電力と安全協定を結ぶ。</p>
1-3	<p>■浜岡原発について その安全協定の中身っていうのはどういう中身で協定を結んでいるのかっていうのは見る事が出来ますか。</p>	<p>●協定を結んだ時には必ず新聞記事になると思います。データでも、すべて（結んだ時に）お見せすることは出来ます。地元4市が結んでいる内容については、インターネットで調べることが出来ます。そういったものを参考にさせていただければと思います。</p>

2	<p>■特定空き家について 特定空き家について、1年以上空き家の場合は、市が潰して、市が個人に対してお金を請求するよってという話でしたよね。例えば、その家が、住宅として貸すために、貸すための準備をしているよという場合は、その期間中に入るんですか。</p>	<p>●もちろん、そういう家には関係ないです。空き家でも、普通の家だったら特定空き家になりません。朽ちかけているとか、通行人が下を通ったら軒が崩れてくるかもしれないとか、ゴミ屋敷のようになってしまっていて環境に悪いとか、そういう特別な、周辺に影響を及ぼすような、そういったものを1年以上置きっ放しにした時に特定空き家ということになります。1年以上空き家であるということであれば、建築住宅課の方にお話していただければと思います。</p>
3	<p>■コミュニティバス・高齢者へのタクシー券について コミュニティバスの件ですけれども、向谷街道の方はコミュニティバスが走っていますけれども、稲荷町内が回っていないんです。その廃止の理由と、高齢者が免許証を返納した場合、病院や伊太和里の湯などに行くのにとっても不便しておりますので、病院などに行く場合は申請などして、タクシー券の発行を検討してみてください。</p>	<p>●コミュニティバスは、この4月に少し路線の改変をさせていただきました。ある意味、使いやすくなりましたけれども、ある意味、通らなくなったってところからは不便になったっていうお声もいただいております。今でも、コミュニティバスに、だいたい2億4000万円ほど年間にお金をかけています。予算はそれだけかけているんですが、それでもやっぱり本数が少ないとか、使い勝手が悪いとか、間隔が長すぎるとか、乗ってるお客さんがいないじゃないかとか、いろんなご批判をいただいているというのが現状でして、少しでも幹線を走るものを充実させていきたいという中で、ほとんど全部を島田駅発着という形にしました。ですから、例えば川根温泉などに行く時に、途中で乗り換えないといけなかったものはまっすぐ行けるようになった。そういう利便性もあるんですが、あるいは、これまで通っていたところに通らなくなったというような、今のようなお話もいただきました。将来にわたって、持続可能なコミュニティバスのあり方というのを、考えながら、またさらに改変していきたいと思います。というのは、交通手段としてだけコミュニティバスを考えるのか、あるいはこれが4億、5億かかっても、福祉という立場からコミュニティバスを考えるのかってことも一つ、考え方のあり方だと思います。それから、本当に高齢者の方が、免許証を返納される方が多くなって、交通弱者になって、行きたいところにも行けないよってというお話も聞く中で、コミュニティバスを減免して、皆さんに乗りやすくするとか、そういったことについては、今検討を、指示はしているんですが、ただ、タクシーの券の話になると、さっき29.3%が65歳以上ですよって話しました。75歳以上の方が15%いらっしゃるんです。10万人の中の15,000人が75歳以上です。そうすると、例えば、月に1回市民病院に行くのに、片道1,000円のタクシー券で、1回2,000円を、月に1回だから1年間に24,000円、これで15,000人についていうと、約4億円くらいのお金がかかるんですね。そうするとね、この4億円をタクシー代として、まあ今でも、障害者手帳を持っていらっしゃる方には</p>

		<p>タクシー券を出しているんです。だけれども、ご高齢の方たちにタクシー券を出すのかどうかというところは、大変難しい判断もあって、じゃあその4億円があるなら、その4億円でもっとコミュニティバスを充実させればいいじゃないかっていう考え方もあると思うんですよね。このあたりも議論をしなければならないというふうに思っています。この稲荷町からですと、市民病院までは、しずてつジャストライン、こちらの方を使っていただくと、だいたい市民病院までまっすぐ行けることと、それから、田代の郷の温泉の方は、申し訳ないです。一度、駅に行っていて、駅からだとまっすぐのがあるんですね。本当にご不便をお掛けして申し訳ないなと思いますが、そこをちょっとご理解いただきたい。それで、私の頭の中で、今考えていることの1つは、議会でも交通弱者のご質問をいただいています。交通弱者ということは、病院にも不便だけれども、お買い物にも不便という方たちに、じゃあどういう施策ができるんだろうかということを実は少し考え始めています。皆さんに必要な日常の雑貨を皆さんのところに運べるように、こうやって皆さんとお話する中で、いろいろ聞くとね、こういう政策が必要だな、あるいは、こういう方法もやれるんじゃないかっていうようなヒントをたくさんいただきます。そういったヒントをですね、施策に生かして少しずつでも良い方に生活が回っていくように、しかもスピード感をもってやっていかないと、手始めが徐行運転だったじゃないかなんて言われると困りますから、だいぶスピードアップしてやって参りたいなというふうに今思っているところです。免許証を返納していただいた方たちに、何かしらのプレミアムっていうか、インセンティブが与えられるといいんですけれども、皆さんが免許証を持っているわけではないものですから、そのところのやり方が、皆さんに公平に行き渡るようにするにはどうしたらいいかということをごちゃごちゃと考えさせてください。</p>
4-1	<p>■観光について 島田市の観光についてちょっとお伺いしたいというふうに思います。空港があって、それから第2東名のインターがある。牧之原のインターもある、それから大井川が流れている、SL があって、近くには河原町の古い街並みがある。蓬莱橋もある。ちょっと大井川の上流に行けば大井川の自然がいっぱいある。川根温泉もある。こういう、観光資源には恵まれている方ではないかなと思うんですけれども、こういうふうな観光資源をどんなふうに活用をしていって、今ちょっとさびれている島田市をどんなふうに活性化していく計画があるのか、ち</p>	<p>●観光で稼ぐということは、今私どもが考えている施策であります。これまでは、職員の間でいろんな話をして、島田は観光の町ではあんまりなかったと、資源は持っているけれども、どれも点々で、なかなかそれが繋がっていかないということがあったと思います。「とと姉ちゃん」というNHK の番組で、蓬莱橋はですね、このゴールデンウィークも、ほんの2、3日の間で、12,000人を超えるようなお客様がお見えになっていましてですね、大変な賑わいがあります。SL もトーマスも流行っていますし、年間10万人以上のお客様がお見えになります。蓬莱橋は11万人という去年の統計でありました。博物館の周りも今、「ヒストピア</p>

よっとお伺いしたいんですけども。

島田」という名前を付けて、博物館だけじゃなくて、あのエリア全体を変えようということで、実は専門の職員を去年からおいて、ヒストピアという名前を付け、今いろんな企画をそこにのせて、やっているところなんです。ただ、ちょっと難しいのは、河原町は観光庁の、いわゆる史跡に指定されていて、空いているところに家を勝手に建てるわけにはいかない。それから、今ある番小屋で、例えば、おしゃれな小物を売りたいとか、カフェにしたいとかっていうことが出来ない。当時あったものなら使えるんですけども、そういういろいろと難しい規制があつてですね、十分に生かしきれていないなとは思っています。しかし、今、観光で稼ぐという切り口はしっかり持っていますね、少なくとも長い間懸案だった蓬莱橋のところにお休み処を造りたい、物品販売所を造りたいということは、ずっと国交省にもお願いをし、国交省も規制緩和という中でですね、地元の協議会を作って、どういものが欲しいんだっていう協議をしてくれれば建ててもいいよという話になりました。それでこの5月から、「ミズベリング協議会」というものを立ち上げました。この秋までに、蓬莱橋の左岸、番小屋のある方ですね、あちらの方にお休み処を造りたいと思っています。そこでは、島田の物品を販売し、そして牧之原大地を川の向こうに臨みますので、牧之原大地に幕臣800人を開拓に入れた中條景昭、この中條景昭のボスであるところの勝海舟、勝海舟の命によって幕臣達が入りましたので、勝海舟の銅像もその蓬莱橋のところに建てたいと思っています。既に銅像は出来ていて、博物館の庭に飾っています。今は、手が触れる高さですけども、来年になったら1.5メートルの台座の上に乗りますから、なかなか手が届かないくらい大きなものになるかなと思っていますが、そういったことも合わせながらですね、まずは、蓬莱橋に来るお客さんたちにしっかりお金を落とすように、渡った向こう側にも何かあるといいつて、ずっと言われているし、そう思うんですけども、なかなかすぐには出来ないところがありますが、このミズベリングの協議会はですね、物品販売所を造ることが終わりではなくて、水辺の空間というのを、どうやってこれから地域の活性化に繋げていくのか、それに必要なものは何なのかということも協議していただく場ですので、そういったお話し合いを重ねながらですね、観光で稼ぐ町をつくっていくということで、頑張っていきたいと思っています。それから、周遊バスとか、そういうのがあるといいというのは思うんですが、どこを回るかによりますけれども、随分回り方によっては時間がかかるのと、先日も蓬莱橋に来るお客さん

		<p>を調査したんですが、一番多いのは、車で来る方であります。その次がハイキングなんです。さわやかウォークみたいに駅から歩いてくる方たち、その次は自転車なんですよ。なかなか、バスか走っているからといって、それに乗って回ってくるお客さんがどれだけいるかっていうことになる、なかなか難しい課題もありますので、それならレンタサイクルを無料で使えるものを駅前に置くとか、いろいろとやり方はあると思います。又、皆様方のご意見をいただきながらですね、やっていきたいなと思っています。金谷にできる予定の賑わい交流拠点にもですね、SL関連の物品をおいて、引込み線も引いて、できたらいつでも SL を眺められるような場所を造って参りたいと思っています。</p>
4-2	<p>■観光について 家山の奥にパラグライダーの基地があるのをご存知ですか。ああいうものって何かうまく利用出来ないんですかね。</p>	<p>●今やっているパラグライダーの基地よりも、もう少し手前の朝日段のちょっと奥ですか、高取山の上に新しくパラグライダーの基地を建設するというので今年度の予算に上げております。ですから、トイレや、ベンチや、飛び立つところを伐採しなければなりませんので、そういったこと、それから、そこに入る道路の整備等をやって参りますので、2ヶ所から飛べるようになります。1ヶ所は、数年のうちですね、タンデムって言いましたかね、観光資源として使えないかということで行政の方は今やっているところです。1人乗りだけじゃなくて観光用の2人乗りも飛ばせる場所にしたいと思っていますので、是非それも名物にしていきたいと思っています。</p>
5	<p>■若者の就労先について (市長は)若い人が来てここに住んでと言っているけれども、仕事もなくちゃ来れない、仕事をつくらなくちゃしょうがないですね。去年の10月にオックスフォード大学の教授が、これから10年で無くなっていく職業っていうのを出したんですね。それを見ると、ものすごいですね、身震いするような、職業があつという間になくなっていく。その元は、AI ですね。Artificial Intelligence ですね。あの人工頭脳ですね。例えば、税理士なんていうのは無くなっちゃうっていうんですね。私の甥っ子が資格をとるために今勉強しているんですけども、「そんなのは、今に無くなっちゃうぞ。」って言ったら、びっくりしてたんですけどもね、竹村健一の話を知っていたら、エストニア、この中では実際には無くなっちゃっているらしいんですね。税理士って職業が。これは全部、いわゆる人工知能でパッパってやっていくと、ほとんど済んじゃうそうです。実際に日本でもいろんなソフトが出ていますよね。あれがどんどん進んでいくんですよっていう話</p>	<p>●素晴らしいアイデアをありがとうございます。まさに、仕事がないと若者が来ないと言うけれども、その通りなんですけれども、今、大学を出た人たちは、製造業では働かないんですよ。みんな、パソコンを使ったり、デザインをやったり、スーツを着て、オフィスビルに努めるような仕事をしたいものだから、いくら企業誘致をしても、ミスマッチなんですよ。そういう、若い人たちが望むような職種がここに増えればいいですけども、逆に、住みやすい町だって、うんとそこに特化して、近くに働きに行ってもらったって別に構わないわけです。ただ、金谷周辺の場所についてはですね、全国的に見ても非常に価値がある。それは、内陸フロンティアで開発しようとしているところはいくつもあるんですが、大抵水が無いんです。金谷のあそこは、大井川の伏流水が豊かに出るまちでして、水質もいい、そうすると、食品関係だとか、医薬品関係だとか、今でもいくつも、水質の良い水を使った職種で、来たいというオファーをいただいております。そういうところをしっかりと捕まえていきながら、そして、全国展開しているような大規模な業者と繋がりがなが</p>

	<p>らしいんですけども、そんなことはどうでもいいんですけども、我々の生活の中に AI です、人工頭脳がどんどん入ってくる、そういうことを聞いてましてね、先程市長が、すごく広いところがあって、コンペをやったって、そういうところをですね、島田のシリコンバレーにしたらどうかと。これは私が今聞いていた中で、近くに飛行場もあるし、地下の新幹線の駅と結びつけて、シリコンバレーで世界から企業を呼び寄せて、そうすれば若者がどんどん入ってくるんじゃないかと私は勝手に思いました。</p>	<p>ら、何とかあそこを埋めていきたいなというふうに思っています。そう簡単な話じゃありません。しかし、これが、これからの島田を変えるきっかけになるとして何としてもやり遂げたいと今思っています。</p>
6	<p>■コミュニティバスについて バスの件です。私のところは、今言われたとおり、三つの停留所があったんですが、それが4月から無くなっちゃいまして、特にお年寄りの方が非常に困っておるんですね。まあ確かに、こちらの県道ですか、それと、はなみずきの方に出れば、停留所はあるんですが、なかなか80代、90代の方になると大変でして、といいますのは、実は昨晚も、90歳ちょっと前の方が私のところに電話があって、「目が回るんだけど」ということで、それはいかんということで私がすぐとんで行ってみたら、「今はちょっと落ち着いたから明日にする」と言っていて、「病院に行ってる」と聞いていたら、「この頃バスがなくなっちゃったんで行けない」と。そういうような方が、今、稲荷町に70歳以上はもう900人以上いますので、今話をしたような方もかなりおりますので、健康問題だけではなくて、他のメンテもかなりあって、行きたいんだけどなかなか出られない。せいぜいこの公会堂へ来ていろんな行事に参加してくれるんですけども、バスを何とか通していただきたい。私も時々、ちょうど家の前に回送バスっていうのは結構通りますよ。朝も、7時頃とか8時頃、それからお昼頃、夕方なんか回送バスが通っているんです。で、ついていったら島田の駅へ行っているんだよね。それから一つは金谷の方に行くんです。わざわざ通るのなら、乗せていってくれれば、静鉄さんだって、わざわざ乗せないで、普通の民間会社ならもうちょっとその辺の努力をさせていただけるかなと思ってるので、そこら辺の事を市長さんからも言っていただけるとありがたいんですけど、とにかく、お年寄りが病院へ行くにも、近くに病院もあるんですよ、稲荷町には二つ、ですけどやはり、私は向こうでないと困るっていう方も多いもんですから、是非ご一考をお願いしたいと思います。</p>	<p>●回送バスにはちょっと乗せられないだろうと思います。それは本当に申し訳ないと思うことと、来年度以降もコミバスは、少しずつですけども、2年に一度は大きな改善の余地があると思っていて、実は、来年の4月に変えるのでも、この6月に陸運局に許可申請が無いと、来年の4月には変えられないということで、私が急に变えたいよと、皆さんのお話を聞いたらすぐにっていうわけにはいかないっていうような事情も実はございます。そうした中で、ここは街の中だから、そんなには無いんですけども、中山間地に行けば、今のような話をもっともっと深刻でしてね、今、地域にバスを、バスと言いましても、10人乗りとか15人乗りくらいの車を、ワゴン車と、それから保険、ガソリン、こういったものを行政で見て、地域で、地域の高齢者を支え合うという仕組みをつくれなんでしょうかということで、お話をしています。お金を取ってもらおうと白タクになってしまうからダメです。だから、誰かが運転をして、地元の人たちの足のない人たちの買い物とか、病院とかに連れて行っていただくということを考えてもらわないといけないんだけど、それに必要な車だとか、保険だとか、ということについては、行政の方で準備することが出来ますし、実際にそれを検討しているところがあります。そういう導入をしてくださったり、それからある地域は、小さな小規模校なんですけれども、小規模校でもお子さんが放課後児童クラブに入りたいと、でも、そこは小さな学校で、全校で30人ぐらいしかいないものですから、放課後児童クラブをなかなか造れない。一番近くの放課後児童クラブまで5キロある、一年生が歩くには距離が長い、心配だということ、地元にご相談申し上げましたら、地元の自治会長さんがですね、「いいよ、それなら、行きだけだよ、帰りはお母さんが迎えに行くんだから。行きだけだったら、何人がボランティアを募って、週に1回行ってもらえばいいんだから。」と言って、毎日、実は、5キロ離れた小学校まで送ってくださっている方がいらっしゃいます。その方</p>

		<p>たちは、自分の車で送ってくださっているので、島田市としてはガソリン代とわずかな手数料という形でお支払いをしているというような状況です。だから、いろんなやり方が考えられると思うんです。一人暮らしの方が多地域だったら、週1回でもお弁当を配って、安否確認を一緒にしてくるってということだってできると思うんです。そういう、地域の課題を自分たちの力で、地域にやれることは無いかということも、もし皆さん方が少しずつでも動いてくださったら、やっぱり地域は変わっていくし、そのために行政がお手伝いできるっていうか、一緒にやれることは何でもやりたいというふうに今思っています。だからっていろんな課題があると思うんですね。私、今日、これはまだ政策にまではなっていないですから、ちょっとしたアイデアだけだと思って聞いてくださればいいんですけども、あるところでは、スーパーがですね、軽トラで荷物を、一人暮らしの人や買い物に來れない人のところに運んでくれる、そういうサービスをしてくれる事業所と契約したいっていうことを言い始めたスーパーも出てきているんです。逆に、行政がそういうお手伝いを出来たならば、日常の食料品と共に、スーパーと繋がっているんだったら、洗剤も、トイレットペーパーも、ティッシュペーパーも、この次に来るときはこれをお願いねって言えば、それもやれると思うんですよ。今、コンビニは、宅配を始めています。同じような考え方で、その地域に根ざした、その需要に合った形をつくってあげれば、行政がお手伝いすることで、そこに起業のチャンスも生まれてくるって思っています。そんなことも実は今日ちょっと、内部で話し合ったところです。課題もあるかもしれませんが、とにかくいろんなことを考えながら、少しずつでも改善をしていきたいなと思っていますところなんです。</p>
7	<p>■子どもの医療費及び信号について 子ども会をやらせていただいております。先程お話を聞かせていただいて、子どものことに、すごく力を入れていただき、ありがとうございます。子どもを抱えていると、どうしても小さい時は病気が多いので、病院へ通うことがあって、今、500円でやってくれているんですけども、夜行くと、市民病院の診療費がお高い感じなんですけれども、藤枝なら500円で、志太の所ですけども。 島高の横のところに、交通量が多いところに信号を付けてくださるそうですけども、いつ頃できるでしょうか。</p>	<p>●信号のことについては、警察の担当でして、私にはちょっとわからないところがあるんですが、わかる範囲でお答えさせていただきます。志太の救急センターは、あれは藤枝ではなくて、島田も大分お金を払って、島田、焼津、藤枝、そして、吉田町、牧之原なども入って、共同で、実はやっているところです。そういうところは、比較的安く診ていただけるんですけども、市民病院はですね、突然行くと、一番最初の初診料が、割増の初診料がかかるものですから、お子さんがいる方ですと、普段500円で診てもらえるのにならぬところが高くなってしまって、大変申し訳ないです。ただ、今電話等でもですね、お子さんの病状を聞いて今すぐ病院へ連れて行ってくださいとか、明日の朝まで様子を見て、大丈夫ですよとかっていう、そういうご案内を、相談にのれるようなこ</p>

ともやっていますので、ご利用いただければありがたいというふうに思います。又、広報しまだに「ちょうしんき」っていうのが入ってくると思うんですが、この裏に、市民病院の紹介状なしで診てもらえる診療科目と、どうしても紹介状がまだいるよっていうところが書かれています。紹介状がないと診てもらえないんじゃないかって思い込んでいらっしゃる方が多いですけども、大部分が紹介状なしです。いくつか、医師の数が足りなかったり、専門的な分野について紹介状がいるということになっていますが、紹介状がいるのは血液内科とか、内分泌内科、神経内科、というような分野であります。是非、「ちょうしんき」の裏を見ていただけるといいと思います。そしてまた、事業管理者も、予約なしで来た方も自ら診るよという事を言っていますので、追いつくようなことは決してしないよということも伝えていきますので、是非、また何かあれば私の方にも伝えていただければ改善をして参ります。

島高の横の信号機ということでございますが、今、警察は大変予算がなくて、昨年1年間に付いた信号機が、市内に2ヶ所ございました。この広い全域で、2ヶ所しか信号が付かなかった。挙げ句に、ある地域に行ったら、警察が来て、ここの押しボタンは一週間に25回しか押されていないもんだから、外してよそに持って行きたいって言うんですよ。それで、市長が許可をしたのかっていうお叱りを受けたんですけども、信号機の話は、実は行政は、なかなかわかりません。警察がやっています、私どもも、ここに信号機が欲しいっていうお願いに、警察には行くんですけども、その後のことは警察の権限になっています。で、この前、署長さんには文句を言いました。自治会長さんに、外してもいいかって聞いたって言うから、それは、自治会長さんがいいって言えるわけが無いことで、でも、そのくらい、実は国も大変に予算が厳しくなってきた、様々な補助金等も、国交省の補助金も、今から14、15年前の3分の1です。国の補助金も3分の1なら、県の補助金も7割カットっていうような状況で、道路を造りたいと思っても1年、2年遅れてしまうなんていうことがちょくちょくあるような、そういう時代になりました。警察が信号機を付けるのに、この広い市内の中に2ヶ所しか付けられないっていう時代になってきたものですから、そこはみんな、知恵を出し合いながらやりたいなと思っています。ただ、警察への要望や、苦情等を行政は聞きます。生活安心課というところで聞きますので、伺って警察にしっかり伝えて参りますので、そこは、お話をいただければありがたいと思います。

■防災について

8 染谷市長になられてから、危機管理部長を招聘して、補助金の面も、去年あたりからグッとアップして、防災に力を入れていただいて非常に感謝しています。そんな中で、一つ要望があるんですが、防災委員長会議に出ますと、いろんなところから、危機管理課でないところの書類等がいろいろ回ってくるんですよ。この頃も、初めて聞いたんですが、「しまだ防災ねっと」の方がきて、避難所運営をこうしたいっていうような資料を、各避難所に回ってきました。それとか、この間の資料では、社協が主催の定期セミナーですか、第1回定期セミナー、これも社協なんです。要はですね、社協、それから社協さんの下に地域包括支援センターですか、それがあまして、この方たちも来て、要支援者のことについて言ったり、いろんなところから情報が入ってきまして、この間も、危機管理課の方には言ったんですが、こういったものは、すべて危機管理課を通して、窓口を一本化して言ってもらえないかと。黄色い旗の問題もそうですよね。最初は福祉ですか、それからまた、危機管理課になっているっていうことで、非常にわかりづらいということで、是非そういったものは一本化していただきたいと思います。もう一つ、今、稲荷町が抱えている問題としまして、これは、市長に今すぐどうこうしてという事ではなくて、そうなんだと思っていただければ結構なんです。この稲荷町には、1小、島高、1中という三つの避難所があるんです。これは、全自主防を探しても無いことで、一つの自主防災が三つの避難所にわかれているんですよ。そうすると、全部が稲荷町の人間では無いですから、島高は河原町さん、1中は若松町、三ツ合町さん、それから、1小は向谷さん。そういうところは、合同で避難所運営会議を進めるんですが、それがなかなか、町内が変わりますと、いろいろ考え方とか温度差があるわけですよ。お金の使い方なんかも、そのやりくり、例えば避難所単位でお金を積み立てて運営するんだったらいいんですけども、各自主防災から出るんですよ。稲荷町の自治会費から出てるんですかね。そうすると、1中が50,000円使って、1小が10,000円使って、島高が5,000円とあって、そういうわけにはいかないですよ。ですから、その辺の調整が苦勞しているものですから、今すぐどうこうでは無いと思いますが、そういう稲荷町の、独特の防災の運営に苦勞してるっていうことを市長にわかってもらいたいと思ひまして。

●避難所運営会議をずっと続けられて、予算のことで、それぞれのやり方があって大変というお話は伺いました。一つの自治会、一つの自主防が、全部一つの場所であつたらわりと運営は簡単なんですけれども、そうじゃ無いものですから、これは、市内で39の第1次避難所がありますが、どこもやっぱり、いくつかのご町内やいくつかの自主防で共同運営するような形になっています。やっぱり、何回も何回も避難所運営会議を重ねるという中で、やっぱりやり方を積み重ねていくしか無いんだなっていうことがまず一つあります。日頃やっていないことが、いざとなった時にできるわけは無いものですから、なおのこと、そこを続けていただきたいということと、もう一つ、私が大事だと思っているのはここ（稲荷町公会堂）です。ここは、いざ発災となれば、稲荷町の対策本部が置かれるところです。熊本の地震でいうならば、実は避難所じゃなくて、車に避難している人、それから、避難所じゃない空き地にテントを張っている人、それから、ビニールハウスの中で暮らしている人、様々な人がいて、指定避難所っていうところには食べ物が行くようにはなっています。だけど、そうじゃない所に避難している人や、自宅にいる人たちにどうやって食料を配るのか、どうやって医薬品を配るのか、この地域全体の、負傷者がどのくらいいて、今どういう状況になっているのかっていう本部が、ここ（稲荷町公会堂）にできるんですよ。やっぱり、この本部の機能をしっかり持って行くということが一番大事ななと思っています。ある程度ルールを決めておかないと、いざとなったときに、例えば、避難してきている人は300人いるのに、おにぎりは100人分しかない、年寄りから先に分けるのか、子どもから先に分けるのか、あるいは、こっちの人から先に分けてこの次はこっちの人ってやるのか、そういうようなことも、実は、日頃からそういうことを想定していないと、実際の時には出来ません。ですから、いろんなシミュレーションの中で、そういう防災に対する備えをしていただきたいなというふうに思います。それから、ここに来る地震は、熊本の地震とは違います。熊本の地震は、直下型の地震ですから、すぐに揺れますけれども、せいぜい10数秒ぐらいしか揺れません。うちの方に来る地震は、海溝型の大規模な地震ですから、広い範囲で3分～4分、震度6強とあっていう揺れが、揺れ続けます。歩くことも出来ない、隣の子どものところにも行けないような揺れが、3分とか4分とか続くわけですよ。そこに、受ける被害というのは、熊本は、確かに厳しい被害を受けていますけれども、局所的ですよ。だから、ちょっと離れば、買い物もできるし、何も困ったこと

		<p>は無いです。でも、この静岡に起こる地震は、静岡から名古屋の方までずーっと大規模に被災して、1週間から10日、熊本は翌日に自衛隊が来ましたが、我々は1週間から10日孤立するという想定になっています。その間の、飲み水と食べ物、そしてまた、避難所に行くのは、実は、家が壊れて入れない、あるいは、余震がきたらつぶれてしまう、そういう人たちが行くところが避難所です。一番大事なことは、我が家に、いられるようにすることです。我が家がつぶれないということ。我が家に食べ物と飲み物があるということ。やっぱり、そういうことを日頃からやっていかないと、一つの体育館は、せいぜい避難所の人数で言えば、200人くらいしか入れません。この稲荷町の人たちがみんな行ったら、どうなるでしょうか。3,400人、とてもじゃないけど入れないんです。やっぱり、本当に困った人しか避難所に入れられないということを思ってください。そのために、家具の固定も必要だし、窓ガラスにはちゃんと飛散防止フィルムを貼っていただかなければいけないし、水はちゃんと溜め置きでもしておいていただきたいし、お風呂の水一杯、お風呂に入った後の水でもいいから置いてさえあれば、トイレの水にも困らないし、いろんな工夫をやれると思います。そういった防災力が、いざというときに問われるし、災害って何かの時に突発的に起こるんじゃないくて、日常の延長線上に起こる、その時、今までの日常が試される、そういう瞬間です。ですから、是非皆さん方には自分の家族を守ることをやっていただきたいなと思います。今、防災に力を入れていただいているっていうお話を聞いてありがたいなと思いました。今日、来る前にちょっと資料を見てきたんですが、平成25年は私が市長になった年です。去年、27年、市民の意識調査なんかを見ますと、地震、水害などの災害に強いまちづくりというのが、すごく満足度が高くなっています。それから、情報公開など行政の透明性の向上というのも、今までは、重点的に取り組まなければいけないと言われていたエリアにあったものが、継続的に繋げていけばいいよっていう、満足度の高い方のエリアに移ってきています。一生懸命やっていることが、こうやって、無作為抽出で選んだ市民の皆さんによるアンケートの結果でも、しっかり出てきているということは、ありがたいことだなって思っています。これからも、とにかく市民の生命と財産を守ることは、行政の根っこのところの役割ですので、しっかりやって参りたいと思います。</p>
9	<p>■電車について これは、アイデアとして流してくればよろしい事なんですが、私</p>	<p>●おっしゃる通りで、金谷から始発があるといいなと思います。やっぱり、金谷の人たちは、20分に一本しか電車が来なくて、例えば、静岡空</p>

	<p>は、JR を使って静岡方面に出掛けることがあるんですが、島田駅から静岡方面へ、電車の時刻でいうと、大体10分程度で出ていますので、結構便利で、ありがたいなと思っています。10分間隔で出るといのは条件があつて、島田駅発つていうのがあつて、それが満たされているんですけども、これは、古い昔には大井川があつて、島田と金谷は別の自治体という、そういう歴史の中で、たぶん、島田発の電車が設定されていると思うんですけども、今は、金谷も島田市ですし、金谷の観光、先程、金谷が魅力的だつていう話もありました。私は、金谷の住民ではないものですから、おせっかいかもかもしれませんけれども、10分間隔の電車つていうのは、非常に良いですよ。私が、金谷に住んでいる立場で考えると、不便だなあと。これは推測ですけども、金谷に住んでいる方がどんな印象を持っているかは定かではないんですけども、島田から JR を利用するつていう立場から見ると、金谷は、ちょっと不便ではなかろうかなあと。これがもし、金谷発上り列車というものが少し出来たならば、おそらく、東から金谷へ来る人も、その逆に、金谷から静岡方面に行かれる方も、生活であつたり、観光であつたり、いずれにおいても、結構利便性が高まるのではないかなというふうに思います。そういうふうには是非してくださいというつもりまではいってないんですけども、JR との関連もあると思いますので、また何かの機会に、金谷始発つていうのは、なかなか難しいつていうのはあると思いますけれども、一つのアイディアとして金谷発つていうのを出来ないものかなということで、アイディア提案です。</p>	<p>港へのシャトルバス、なぜ島田からしか出ていないかわかりますか。金谷の人たちは、金谷から出た方が空港まで近いんだと、是非、金谷の駅からシャトルバスを出してくれつてご要望をいただきます。でも、JR が、島田までは10分に一本です。金谷は、20分に一本なんです。やっぱり、そこのところでなかなか難しい。そして、金谷の駅前に駐車場が無いつていうことの課題等もあります。やっぱり、3本目の電車を引き込める線路が無いと、これも、そこから始発にすることが出来なくて、そういう意味では、島田駅は恵まれている、第3番線があるつていうことの中で、島田から発車するんですね。始発に、通勤電車で座つていけるつていうのは、すごく大きなメリットだと思います。今、藤枝の方に人口が少し増えてるつていう話がありますけれども、藤枝との境からこちら側、六合と初倉は人口が増えていきます。子どもの数も大変多くなってきています。ですから、それをもつとこっち側に引っ張つて来れるような、そういう意味では、一番最初にお話をした子育て支援だとか教育の充実だとかつていうところも大きなポイントになるかなあと。思いながらやつているところです。SL も出来たら金谷駅から出したつていう思いがあるんです。今は、新金谷駅からしか出ていないんですけどもね。出来ない理由はですね、ホームの長さが2両分しかないんです。金谷駅の大鉄のホームが。でも、SL は7両編成で走つていまして、7両の先に機関車がついていまして、ホームが2両分しかないもんですから、電車に乗つて電車の中を歩かないと進めないつていうことで、なかなかいろんな課題がある。JR との話し合いの中で、やっぱり地域振興に交通機関はすごく大事ですから、その話はしっかりさせていただきたいと思つています。</p>
10	<p>■図書館の駐車場について 図書館の話ですけども、図書館の駐車場料金が現在30分無料ですけども、1時間無料を検討してください。</p>	<p>●図書館の横にある、おびりあの駐車場が30分無料なんです。それで、図書館で本を借りていただく方に、おびりあの駐車場はコープの駐車場でもあり、マンションに住んでいる人たちの駐車場でもあつてですね、台数が足りないわけです。それで、あそこを1時間に延長したいつていうときに、なかなか難しいことありまして、今借りていまして、しましんの東側に、「アイペック」つていう駐車場があるのをご存知ですか。1時間100円の駐車場です。あそこは、図書館で本を借りていただいた時に、駐車券を見せていただければ、1時間の無料券を出しています。ですから、ほんのちょっと歩く距離が長くなりますが、そうすれば1時間の無料券を使つていただくことが出来ます。それから、こども館と島田楽習センターの両方を合わせた無料駐車場も、鉄道の脇にあるんです。ち</p>

		<p>よっと離れているんですけどもね。あそこは、何時間でも置いていただいて大丈夫なんですけれども、できれば、しましんの横の駐車場に置いていただいて、1時間無料で使っていただければありがたいと思います。</p>
<p>11</p>	<p>■ふるさと納税について ふるさと納税について聞きたいんですけども、焼津市と比べて、島田市の数字を見たら、ちょっとがっかりしたんですけども、その取り組みについてどんなことをしているのか教えてください。</p>	<p>●ふるさと納税、焼津はね、ダントツだって言ってますごく自慢をしています。やっぱり、こう言っはなんだけど、焼津には魚があるからだなんていうことは思います。どんなに美味しくても、小饅頭では東京から人を呼べません。だけど、まぐろ丼を食べた後の小饅頭なら呼べるかもしれないけれども、一番最初の動機付けに、例えばバイクに乗って今日はどっかに行こうかっていう時に、まぐろ丼なら食べに来るかもしれません。でも、小饅頭を食べにバイクを飛ばしては来てくれません。実は、ふるさと納税、大変盛んにやっています。10,000円を寄付した場合に、その人の住むところで8,000円の税控除が受けられます。ですから、例えば島田市の場合ですと、10,000円をご寄付いただくと、私どもは、約半額の金額で返礼品を送っています。神座のミカン10キロとか、5,000円分ぐらい送っています。でも、その5,000円分ぐらいのプレゼントを島田市からもらって、その人がもし横浜に住んでいれば、横浜で8,000円の税控除を受けれるわけです。だから、10,000円を出して13,000円分得をするという制度ではありますが。しかしこれは、1回きりです。それを、1年に10回やっても、ダメです。8,000円しか税の控除は受けられないわけです。私もいろいろ調べましたけれども、ふるさと納税はですね、全国1,700の自治体がある中の、約95%以上の自治体がやってはいるんです。だけれども、上位10位がですね、全体の4分の1を占めるということで、全体の上位100位が全体の75%を占めるということでありまして、ふるさと納税は、儲かっているところばかりではなくて、逆に損をしている自治体も、いくつも出てきています。島田は、損はしていませんが、しかし、やり方を十分考えなければいけないということで、今年、かなり人員を強化しました。そしてまた、返礼品を、メニューの数をうんと増やしました。というのは、島田のモノが売れば、それだけでも地域振興になりますから、それをしっかりやるということと、それから、例えば大鉄のプライダル列車で結婚式を挙げませんかなんていうのも返礼品に付けました。大井川マラソンの出走権も出しています。50,000円です。50,000円以上払ってくれば、走る権利を与えます。今年も、実は大井川マラソンも締め切ったんですけども、10,000人の応募をいただいて、締め切ったんですけども、締め切った後も、どうし</p>

		<p>でも出たかったっていう人もいるわけです。その人たちには、50,000円以上のふるさと納税をしていただければ、走る権利を与えますということで、来ていただいて、出走権の6,500円もまた払っていただいて、ホテル代も交通費も出していただくということで、実際去年やってみました。いるかなあと思って心配していたんですけども、135万円、実は集まりました。ということは、27の方が50,000円を出しても、ただ走る権利をもらうためだけに払ってくれたんです。ですから、今年は、例えば大祭の栈敷席だとか、いろんなことをやってみたいなと思っています。魚で売っている焼津もですね、名前を有名にするために、やっぱりいろんな工夫をしているんですよ。焼津で面白いなと思ったのは、深海魚をプレゼントしています。その深海魚も、ご注文をいただいてから採りに行きますっていう深海魚です。ホームページの、ヤフーのトップ画面にも載っているんです。食べられるものではないし、もらったからどうってモンじゃないです。だけど、お金を払ってから、船で採りに行って、深海魚を釣り上げて送ってくれるっていう、そういうプレゼントです。全国的に本当にいろんなことをやってですね、実は10,000円お金を払えば30キロのお米が届くみたいなのところもあって、国の方は、ちょっと過度な競争が過ぎていると、ふるさと納税を節度ある納税制度にしろなさいという通達も出てきています。そうした中でですね、できるだけ島田の物産品を売りたいし、知名度を上げたいという意味もあって、ふるさと納税は、今年は力を入れております。魚のない町で大変残念ではありますが、うちの一番人気は何だと思えますか。島田の一番人気は、ダントツ、神座のみかんでして、神座のみかん10キロがダントツ1位です。シーズンがまだ終わらないうちにいっぱいになってしまっていて、来シーズンでないと送れない状況になるほど、神座のみかんが一番人気です。</p>
--	--	--

※ 回答は全て市長から回答した。

④その他（市長から）

・これ（「市政への取組実施状況評価」）を置いていきます。3年前に、皆さんとお約束をした30項目の成績表です。どのくらい進捗しているか、93.3%の進捗率であります。未着手は0であります。詳しく、これまで3年間やってきたことの内容が書かれていますので、よろしかったらご覧ください。それから、わたしがずっと立っていたのは、よその地域はもっと人数が少ないんです。だから、私、座っても皆さんの顔が見える、でも、稲荷町はこんなに大勢の方が来てくださいました。皆さんの顔を見ながらお話ししたいと思って、ずっと立っていました。立っているのは、ずっと昔から慣れていまして、大丈夫です。本当にありがとうございました。

⑤当日の様子

